

# 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果にみる 当別町における児童・生徒の学力状況及び対策

## I 調査の概要

- 1 目的**
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

- 2 対象学年** 小学校第6学年、中学校第3学年

## 3 内容

### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

【国語A、算数・数学A】	【国語B、算数・数学B】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として「知識」に関する問題</li> <li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として「活用」に関する問題</li> <li>・知識、技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li> <li>・様々な課題解決のために構想を立て実践し改善する力等にかかわる内容</li> </ul>

### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

- 4 期日** 平成28年4月19日（火）

## 5 実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校	2	126人	118人	93.65%
中学校	2	161人	153人	95.03%
合計	4	287人	271人	94.43%

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除く人数

## Ⅱ 調査結果の概要

本調査は、今年で10年目となる。今年度の当別町の小・中学校の状況は、全国の平均正答率・正答数と比較して、10年間で一番良い結果であった。

小学校では、国語Aで0.5ポイント、算数Bで0.7ポイントとわずかに下回った程度で全国との差はほとんどなく、国語Bでは3.8ポイント、算数Aで2.6ポイントとの差であったが、これまでで全国に一番近づいた。学習内容の定着が進んでいることが窺える（参照：3頁の2）。

中学校では、領域別のほとんどの問題で全国を超える結果となった。国語A・Bでわずかに下回ったものの、数学A・Bは、全国を上回った（参照：7頁の2）。

また、現在の中学校3年生が小学校6年生だった当時と比べた学力の経年変化をみると、小6当時は、全教科で全国を下回っていたが、中3現在では、国語A・Bで全国との差が縮まり、数学A・Bでは全国を上回る結果であった。これらのことから中学校での指導の成果が窺える（参照：11頁）。

学校別にみると4校のうち、小学校1校、中学校1校が全教科で全国平均を上回り、他の2校も徐々に成果を出している。

下位層<sup>\*</sup>をみると、小学校の国語A、算数Bと中学校の数学A・Bで全国より少なく、他の教科では、最大で5.0ポイントの差であったが、着実に小・中学校ともに底上げされている（参照：4頁の4、8頁の4）。

これら成果の要因として、

- 1) 中学校では5教科にデジタル教科書を取り入れるなど、ICT機器の導入による授業改善が図られていること。
  - 2) 小中一貫教育の取り組みにより意識改善が図られ、授業規律、授業の展開方法に統一感が出始めていること。
  - 3) 習熟度別やTTなどの少人数授業が定着したこと。
  - 4) 学校支援地域本部事業、退職人材や学生ボランティアを活用し、長期休業中、放課後、土曜学習など、町教育委員会と学校が連携して実施していること。
- などがあげられる。

※下位層とは、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒の割合のこと。

### Ⅲ 小学校の分析

#### 1) 学力調査

##### 1 教科ごとの結果概要

###### 【国語】

- ① 平均正答率では、若干の差がみられるが、平均正答数ではほぼ差はなかった。これまでで一番全国に近づいた(参照:下表)。
- ② 国語Aでは、本年度、3年生で学習するローマ字を書く、読む問題が3問出され、それぞれ全国平均を下回った。当該学年での学習にとどまらず、学校生活や日常生活の中で継続した指導をすることが必要である。
- ③ 領域別では、国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国を上回った。国語Bの「話すこと、聞くこと」、「読むこと」の領域で落ち込みがみられた。国語Bの「書くこと」の領域では、全国より下回ったものの、全国に近づいており、ノート指導や学習規律定着の成果が表れている(参照:4頁の3)。

###### 【算数】

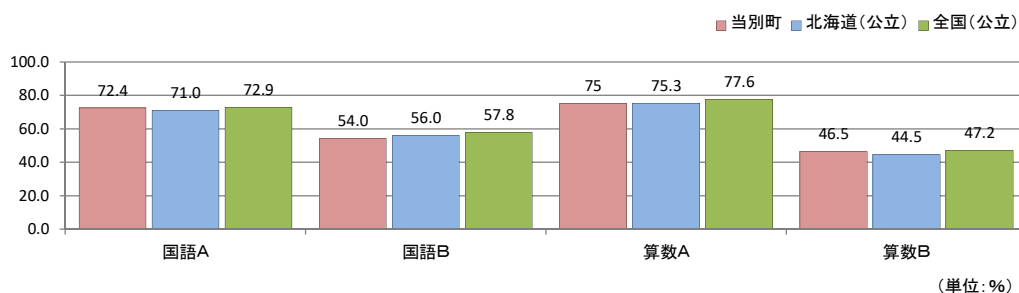
- ① 平均正答率・正答数ともに全国とほとんど差はなかった(参照:下表)。
- ② 領域別では、算数Aの「数量関係」、算数Bの「数と計算」の領域で全国を上回った。算数A・Bともに「図形」の領域で落ち込みがみられており、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深めることが大切である(参照:4頁の3)。
- ③ 下位層の割合は、算数Bが全国より少なく、昨年度からも大きく減少した。習熟度別授業やTT授業などの授業改善、放課後学習や土曜学習などの成果がみられている。(参照:4頁の4)。

##### 2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答率 (%)	平均正答数 /問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 /問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 /問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 /問題数
当別町	72.4	(10.9/15)	54.0	(5.4/10)	75.0	(12.0/16)	46.5	(6.1/13)
北海道(公立)	71.0	(10.7/15)	56.0	(5.6/10)	75.3	(12.0/16)	44.5	(5.8/13)
全国(公立)	72.9	(10.9/15)	57.8	(5.8/10)	77.6	(12.4/16)	47.2	(6.1/13)
全国との差	▲ 0.5	(-0.0/15)	▲ 3.8	(-0.4/10)	▲ 2.6	(-0.4/16)	▲ 0.7	(-0.0/13)
昨年度の全国との差	▲ 6.5	(-0.9/14)	▲ 6.8	(-0.6/10)	▲ 7.6	(-1.2/16)	▲ 4.0	(-0.6/13)
昨年度と差の比較	+ 6.0		+ 3.0		+ 5.0		+ 3.3	

※( )内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。

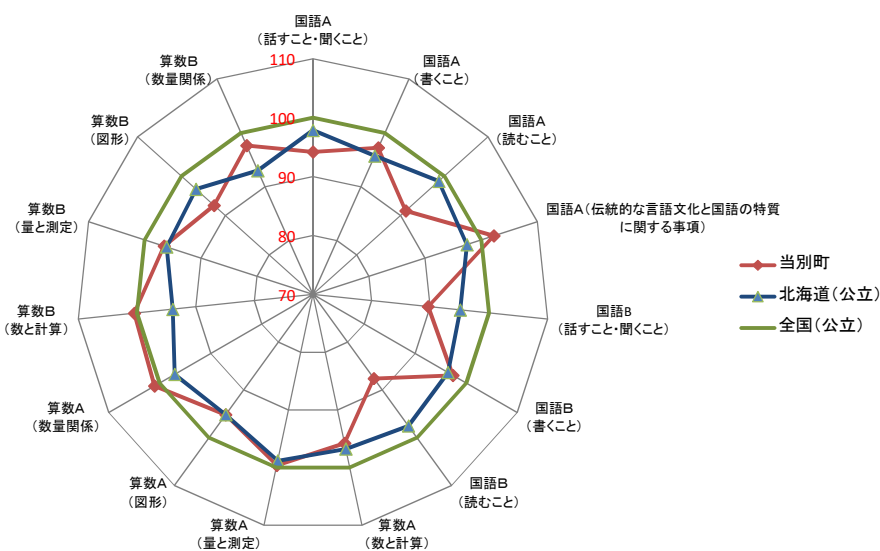
※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、算数A、算数Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。



### 3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (話すこと・聞くこと)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	算数A (数と計算)	算数A (量と測定)	算数A (図形)	算数A (数量関係)	算数B (数と計算)	算数B (量と測定)	算数B (図形)	算数B (数量関係)
問題数	1/15	2/15	2/15	10/15	3/10	6/10	3/10	10/16	2/16	2/16	3/16	6/13	5/13	3/13	6/13
当別町	94.2	97.3	91.2	102.3	89.6	97.4	87.6	95.8	99.6	95.2	101.0	100.5	96.6	92.6	97.7
北海道(公立)	97.9	95.7	98.7	97.5	95.1	96.4	97.5	96.8	98.8	95.2	97.1	93.9	96.1	96.7	93.0
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

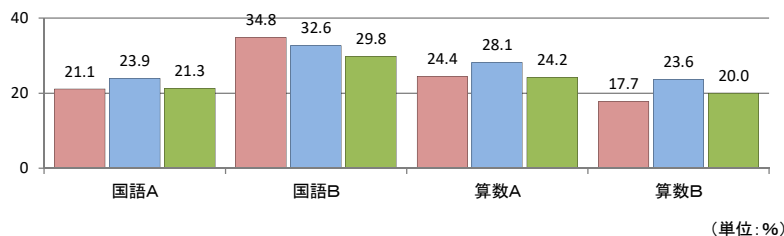
教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。  
(当別町児童の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



### 4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	国語A			国語B			算数A			算数B		
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	21.1%	23.9%	21.3%	34.8%	32.6%	29.8%	24.4%	28.1%	24.2%	17.7%	23.6%	20.0%
	15問中8問以下			10問中4問以下			16問中10問以下			13問中3問以下		
全国との差	-0.2%	少ない		5.0%	多い		0.2%	多い		-2.3%	少ない	
昨年の全国との差	16.5%	多い		11.4%	多い		15.4%	多い		5.5%	多い	
昨年度と差の比較	-16.7%	減少		-6.4%	減少		-15.2%	減少		-7.8%	減少	

■ 当別町 ■ 北海道 ■ 全国



### 5 教科の改善策

- 国語では、発表力、読解力の育成のために文章を段落や話のまとまりを意識して読ませる、また、一斉音読、グループ音読やペア音読などを活用し、声に出して自分の読み方が正しいかを確認させるなど、ポイントを押さえた指導が大切である。
- 算数では、計算力を高めるために、計算の際には位を揃えて丁寧に書く、間違ったところを消さずにその横へ正答を書いて、後から自分で見てわかるように書き方を工夫するなど、ノート指導を継続することが大切である。
- 低・中・高学年の発達段階に応じて、統一した学習規律やノート指導、板書の工夫、習熟度別指導やTT指導の工夫改善、ICT機器の活用など、授業改善の取り組みを強化・継続していくことが「基礎学力の定着」、「下位層の解消」につながる。

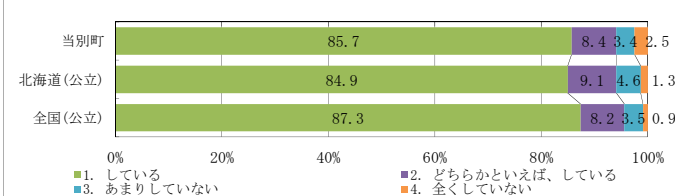
## 2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

### 小学校:生活習慣

#### 【生活習慣】

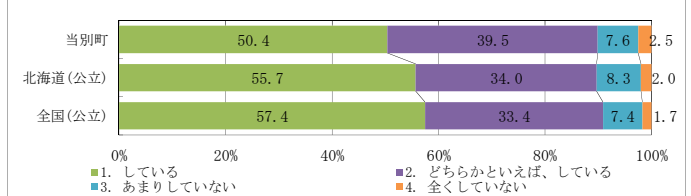
- ①昨年度と同様、「朝食を食べてない・あまり食べていない」と答えた児童の割合が高い。就寝時刻も平成25年調査より遅くなっている。
- ②TV・DVDの視聴時間、TVゲームやインターネットの時間が昨年度より増加し、平日、1時間以上読書する割合が、昨年度より減少した。
- ③小学生の携帯電話・スマートフォンの保有率が6割を超え、全国平均より多い。

#### 「朝食を毎日食べていますか」



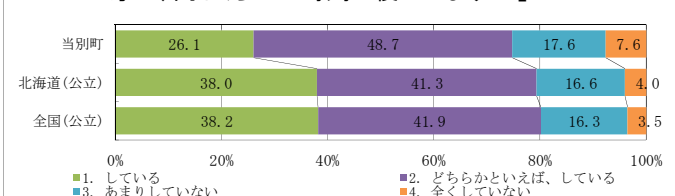
【生活習慣】「食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた児童の割合は94.1%で、全国より1.4ポイント少なく、昨年度より0.3ポイント減少した。2年連続で微減している。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」



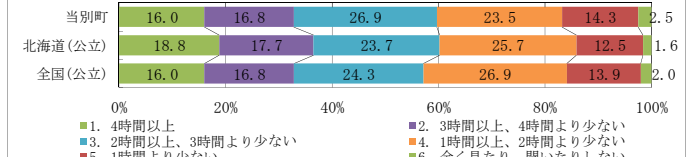
【生活習慣】「毎日同じ時刻に起きていて」「どちらかといえば起きていて」と答えた児童の割合は89.9%で、全国より0.9ポイント少なく、昨年度より1.2ポイント増加した。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



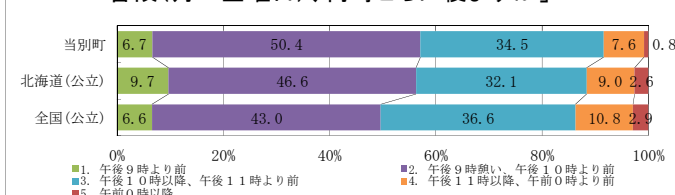
【生活習慣】「毎日同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた児童の割合は74.8%で、全国より5.3ポイント少なく、昨年度より0.2ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」



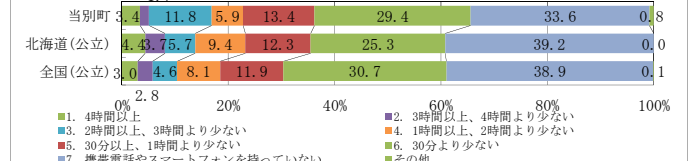
【生活習慣】視聴時間が「2時間以上」と答えた児童の割合は59.7%で、全国より2.6ポイント多く、昨年度の1.6ポイント増加した。

#### 「普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか」



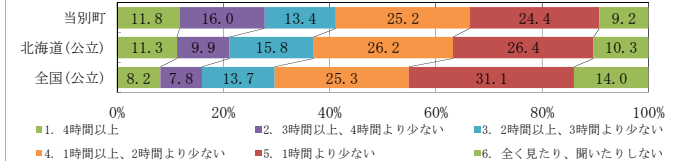
【生活習慣】「午後10時以降」と答えた児童の割合は42.9%で、全国より7.4ポイント少ない。平成25年度調査より1.9ポイント増加した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」



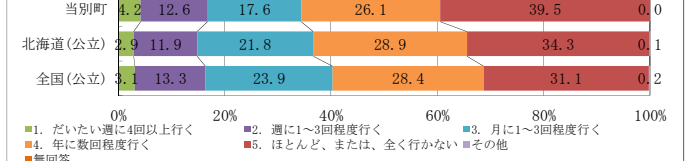
【生活習慣】「2時間以上」と答えた児童の割合は、16.9%で全国より6.5ポイント多く、昨年度より7.3ポイント増加した。「携帯電話・スマートフォンを持っていない」児童の割合は、33.6%で昨年度より10.8ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」



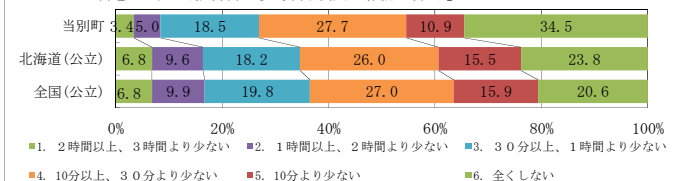
【生活習慣】「2時間以上」と答えた児童の割合は、41.2%で、全国より11.5ポイント多く、昨年度より10.5ポイント増加した。2年連続で増加した。

#### 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」



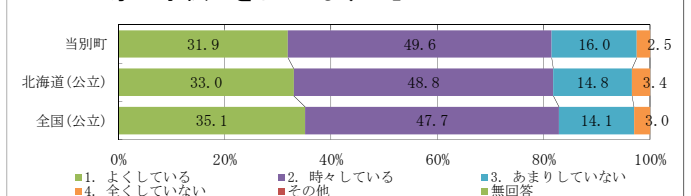
【生活習慣】「週1回以上行く」と答えた児童の割合は16.8%で、全国より0.4ポイント多く、昨年度より6.6ポイント減少した。

#### 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」



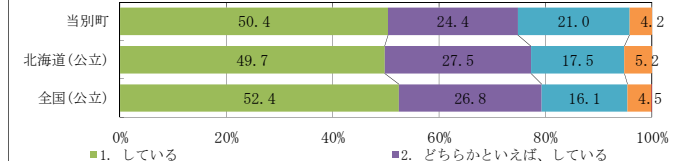
【生活習慣】「1時間以上」と、答えた児童の割合は8.4%で、全国より8.3ポイント少なく、昨年度より15ポイント減少した。

#### 「家の手伝いをしていますか」



【生活習慣】「よくしている」「時々している」と答えた児童の割合は81.5%で、全国より1.3ポイント少なく、平成25年度調査より5ポイント減少した。

#### 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」



【生活習慣】「している」「どちらかというとしている」と答えた児童の割合は74.8%で、全国より4.4ポイント少なく、昨年度より7.5ポイント減少した。

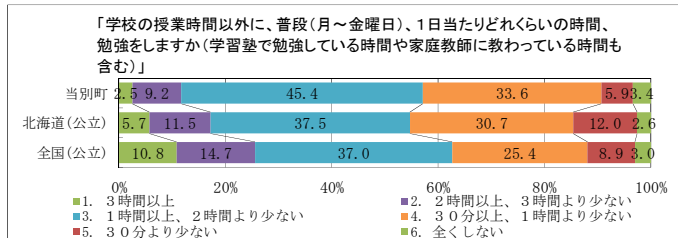
## 小学校:家庭学習

### 【家庭学習】

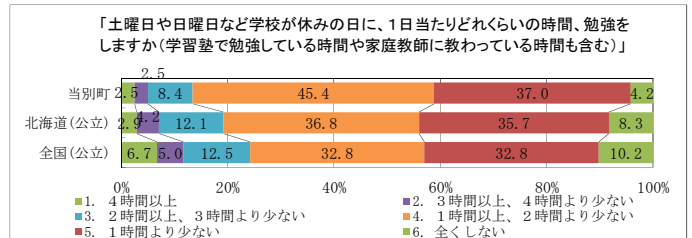
①「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問に「している」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童の割合が高い。

②「学習塾(家庭教師を含む)で勉強していますか」との質問に「学習塾に通っていない」と回答した児童の割合が高い。

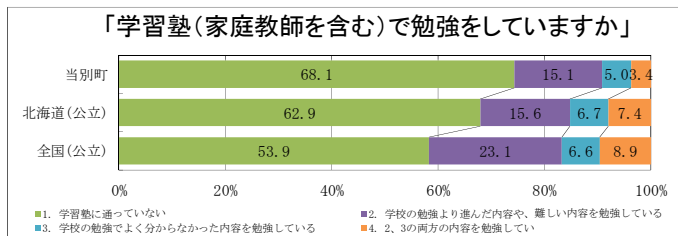
③「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」の質問に「している」、「どちらかといえば、している」と肯定的な回答をした児童の割合が全国より高く、家庭学習で教科書、プリントをきちんと活用している。



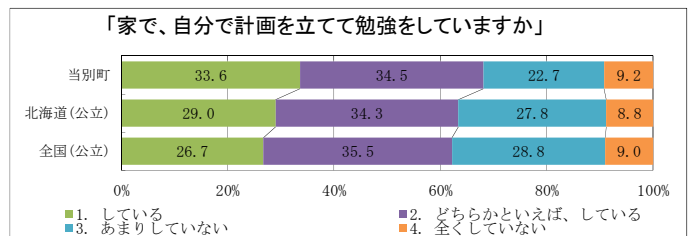
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた児童の割合は57.1%で、全国より5.4ポイント少なく、昨年度より10.6ポイント減少した。



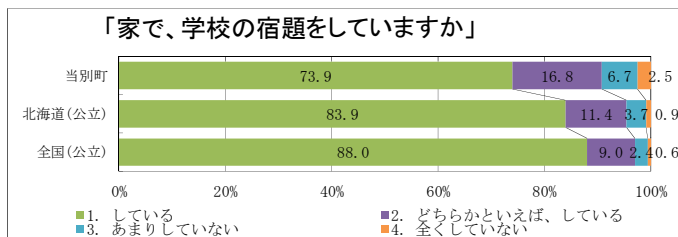
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた児童の割合は58.8%で、全国より1.8ポイント多く、昨年度より17.8ポイント減少した。



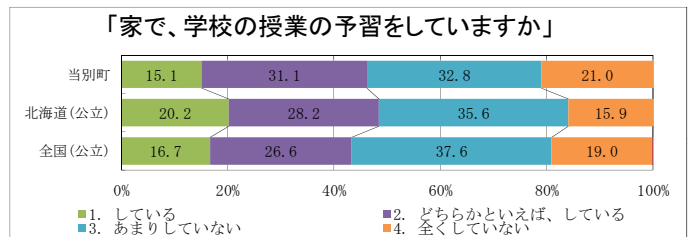
【家庭学習】「塾に通っていない」と答えた児童の割合が68.1%で、全国より14.2ポイント多く、昨年度より21.1ポイント減少した。



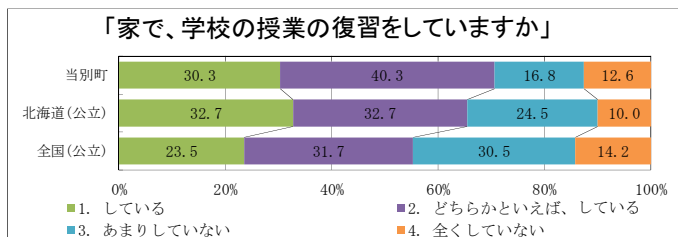
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は68.1%で、全国より5.9ポイント多く、昨年度より4.4ポイント減少した。



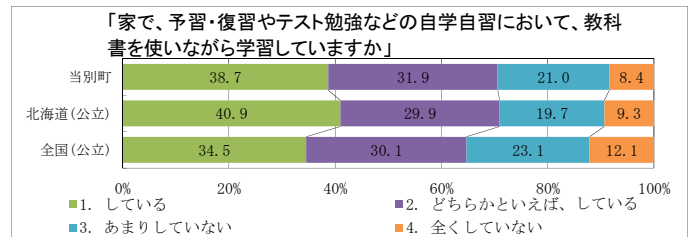
【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は90.7%で、全国より6.3ポイント少なく、昨年度より6.9ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は46.2%で、全国より2.9ポイント多く、昨年度より11.9ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より15.4ポイント多く、昨年度より3.6ポイント減少した。



【家庭学習】「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合は70.6%で、全国より6ポイント多い。《新規》

## IV 中学校の分析

### 1) 学力調査

#### 1 教科ごとの結果概要

##### 【国語】

- ① 平均正答率・正答数ともに全国との差はわずかであった。特に国語Aでは、ほとんど差がない(参照:下表)。
- ② 領域別では、国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国平均を上回ったが、他の3領域では、下回る結果となった。出題の趣旨から「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」という設問で無回答率が多く、チャレンジテストや本学習調査問題の活用を進める必要がある(参照:8頁の3)。
- ③ 国語A・Bともに「読むこと」の領域で小学校同様に落ち込みがあり、読解力の身につける指導が必要がある(参照:8頁の3)。

##### 【数学】

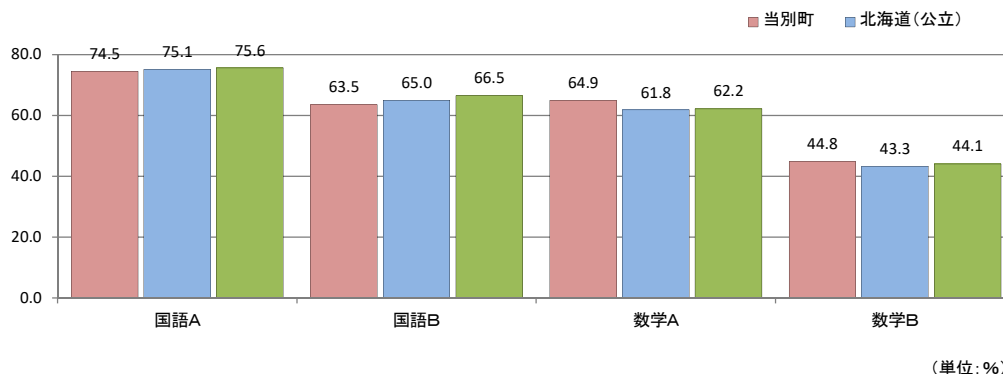
- ① 数学A・Bの平均正答率・正答数ともに全国を上回った。特に数学Aの正答数で全国と比較すると1問以上多く、回答している(参照:下表)。
- ② 領域別では、数学Aで4領域すべてで全国平均を上回る結果になった。数学Bでは、「資料の活用」を除く領域で全国を上回っている(参照:8頁の3)。
- ③ 下位層の割合は、数学A・Bで全国より少なく、昨年度からも大きく減少し、全体をとおして、指導方法工夫改善・授業改善の取り組みの成果がみられる(参照:8頁の4)。

#### 2 教科ごとの平均正答率と平均正答数

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数
当別町	74.5	(24.6/33)	63.5	(5.7/9)	64.9	(23.4/36)	44.8	(6.7/15)
北海道(公立)	75.1	(24.8/33)	65.0	(5.8/9)	61.8	(22.2/36)	43.3	(6.5/15)
全国(公立)	75.6	(25.0/33)	66.5	(6.0/9)	62.2	(22.4/36)	44.1	(6.6/15)
全国との差	▲ 1.1	(-0.4/33)	▲ 3.0	(-0.3/9)	2.7	(+1.0/36)	0.7	(+0.1/15)
昨年度の全国との差	▲ 3.5	(-1.2/33)	▲ 3.9	(-0.3/9)	▲ 6.0	(-2.2/36)	▲ 5.4	(-0.6/15)
昨年度と差の比較	+ 2.4		+ 0.9		+ 8.7		+ 6.1	

※( )内の平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語A、国語B、数学A、数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

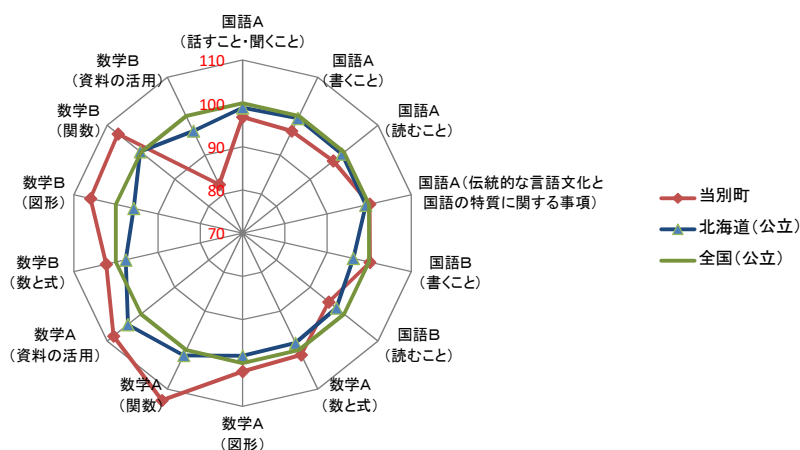




### 3 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率

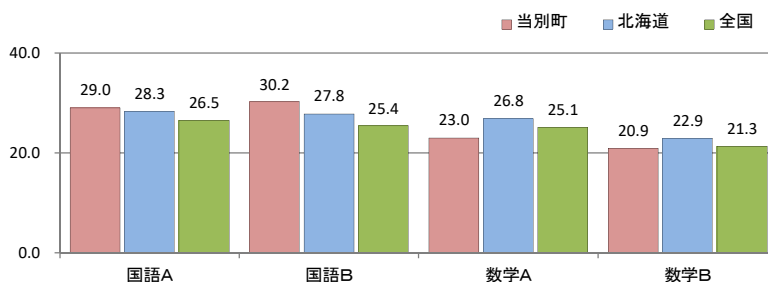
	国語A (話すこと・聞くこと)	国語A (書くこと)	国語A (読むこと)	国語A (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語B (書くこと)	国語B (読むこと)	数学A (数と式)	数学A (図形)	数学A (関数)	数学A (資料の活用)	数学B (数と式)	数学B (図形)	数学B (関数)	数学B (資料の活用)
問題数	6/33	4/33	6/33	17/33	3/9	9/9	12/36	12/36	8/36	4/36	6/36	2/15	5/15	2/15
当別町	96.8	96.2	96.8	100.1	100.2	95.5	101.2	101.9	112.9	108.1	102.3	106.0	106.8	82.4
北海道(公立)	99.0	99.5	99.4	99.2	96.2	97.7	98.2	98.4	101.3	103.9	97.7	95.8	100.2	96.2
全国(公立)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

教科の領域別に全国を100とした場合の状況をレーダーチャートで示したものです。  
(当別町生徒の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



### 4 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	国語A			国語B			数学A			数学B		
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	29.0%	28.3%	26.5%	30.2%	27.8%	25.4%	23.0%	26.8%	25.1%	20.9%	22.9%	21.3%
	33問中22問以下			9問中4問以下			36問中16問以下			15問中3問以下		
全国との差	2.5%	多い	4.8%	多い	-2.1%	少ない	-0.4%	少ない				
昨年の全国との差	8.0%	多い	6.7%	多い	9.1%	多い	7.8%	多い				
昨年度と差の比較	-5.5%	減少	-1.9%	減少	-11.2%	減少	-8.2%	減少				



### 5 教科の改善策

- 中学校でも、1単位時間の流れとして、「課題設定の明示、個人解決から集団解決、まとめの明記、授業の予習・復習、問題の反復練習」は必要不可欠な授業過程であり、生徒が、今日の学習で「何が分かればよいのか」という目標を自覚させることが重要である。小学校からの引き継ぎを基に、実態を把握した授業展開が必要である。
- 「個性・能力の伸長を図る学習」から「自学自習を重視する」の中学校期の学習目標を達成するために学力の定着と能力を引き出す習熟度別学習の充実が必要である。そのために各学校で取り組んでいるノート指導や学習規律、板書の工夫、習熟度別指導やTT指導の工夫改善、ICT活用などの授業改善を一層強化して「無解答の解消」、「基礎学力の定着・向上」に取り組む必要がある。



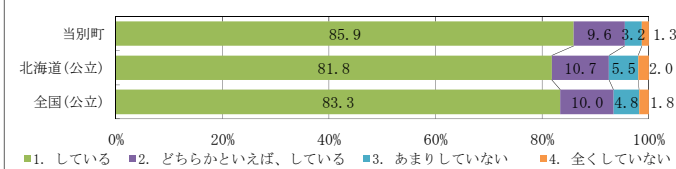
## 2) 学習状況調査(生活習慣・学習環境等)

### 中学校:生活習慣

#### 【生活習慣】

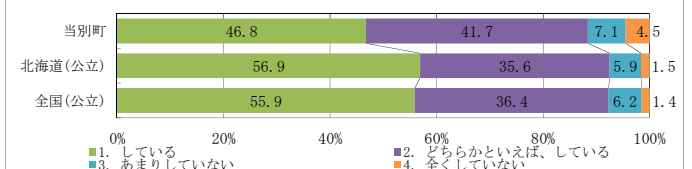
- ①「朝食を毎日食べていますか」との質問に「食べている」、「どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合が全国より2.2ポイント多いものの、昨年度に比べて2.4ポイント減少しているなど、就寝・起床時間や朝食摂取の基本的な生活習慣の乱れがみられる。学校、保護者が連携して、生活習慣の安定を働きかける必要がある。
- ②TV・DVDの視聴時間は、全国より少ないものの、TVやスマホなどのゲームに費やす時間が全国より増加した。また、インターネットやスマートフォンの通話・メール等の利用時間が全国、昨年度よりも増加した。
- ③学校の図書室や地域の図書館へ「週に1回以上行く」割合は、全国より高く、平日に読書する割合も増加している。国語の学習の生徒質問紙調査でも「読書が好き」と回答した生徒の割合が昨年度より増加している。「当別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、今後も読書活動を推進していくことが必要である。
- ④「家の手伝いをしていますか」との質問に「よくしている」、「時々している」と回答した生徒の割合が全国、昨年度より減少した。家族の一員としての役割分担や協力することの大切さを啓もうしていく必要がある。

#### 「朝食を毎日食べていますか」



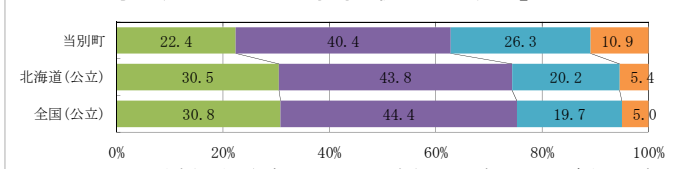
【生活習慣】「食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた生徒の割合は95.5%で、全国より2.2ポイント多く、昨年度より2.4ポイント減少した。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」



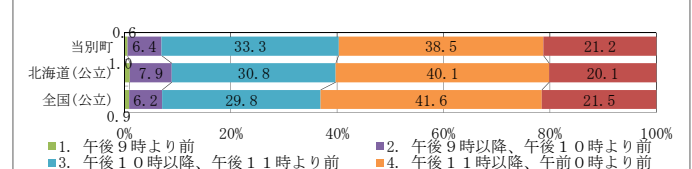
【生活習慣】「起きている」「どちらかといえば起きている」と答えた生徒の割合は88.5%で、全国より3.8ポイント少なく、昨年度より2.7ポイント減少した。

#### 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」



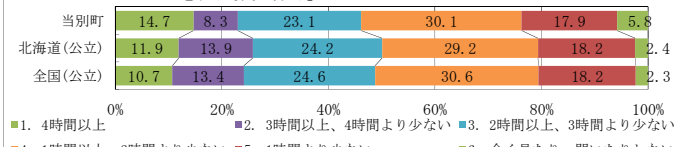
【生活習慣】「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と答えた生徒の割合は62.8%で、全国より12.4ポイント少なく、昨年度より12.0ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか」



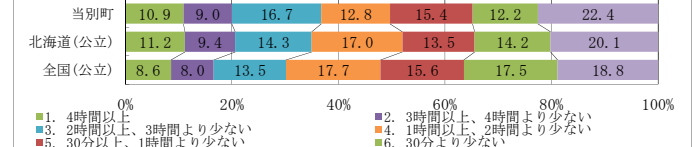
【生活習慣】「午後11時以降、午前0時前」が、38.5%と割合が多く、78.8%の生徒が午前0時前に就寝している。全国と同傾向を示している。平成25年度調査より0.1ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」



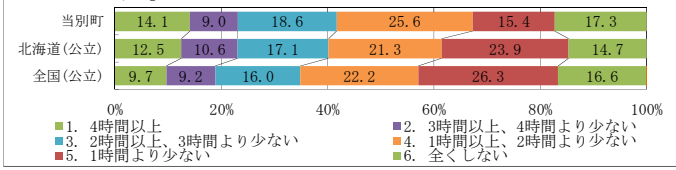
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は46.1%で、全国より2.6ポイント少なく、昨年度より11.0ポイント減少した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」



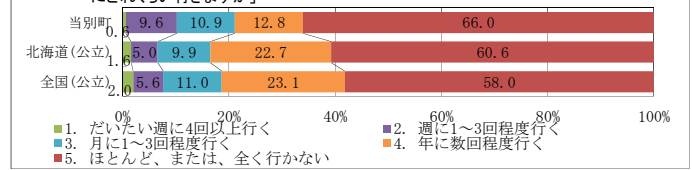
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は、36.6%で、全国より6.5ポイント多く、昨年度より0.5ポイント増加した。

#### 「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」



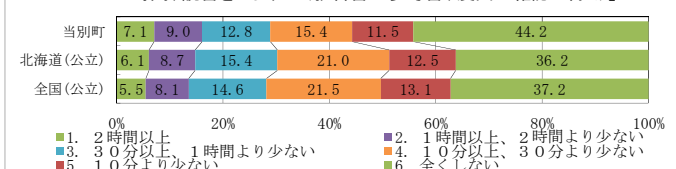
【生活習慣】「2時間以上」と答えた生徒の割合は、41.7%で、全国より6.8ポイント多く、昨年度より0.9ポイント増加した。

#### 「休休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」



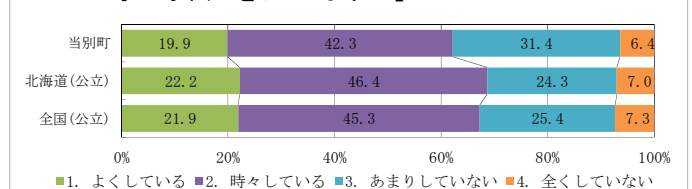
【生活習慣】「週1回以上」と、答えた生徒の割合は10.2%で全国より2.6ポイント多く、昨年度より2.0ポイント減少した。

#### 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をしますか」



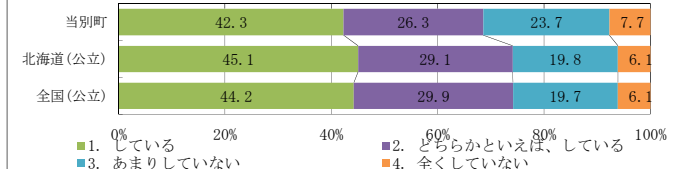
【生活習慣】「1時間以上」と答えた生徒の割合は16.1%で、昨年度より1.1ポイント増加した。

#### 「家の手伝いをしていますか」



【生活習慣】「よくしている・時々している」と答えた生徒の割合は62.2%で全国より5.0ポイント少ない。平成25年度調査より17.8ポイント減少した。

#### 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」



【生活習慣】「している」と答えた生徒の割合は42.3%で、全国より1.9ポイント少なく、昨年度より2.6ポイント減少した。

## 中学校：家庭学習

### 【家庭学習】

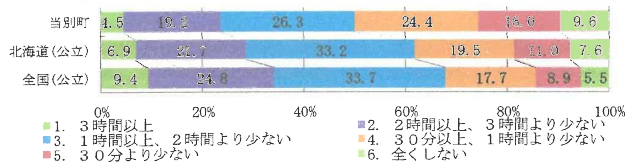
①50%の生徒が平日の家庭学習を「1時間以上」として回答したが、全国より17.9ポイント、昨年度より2.4ポイント減少した。休日の家庭学習時間では、59.7%の生徒が「1時間以上」として回答し、全国より8.1ポイント少ないものの、昨年度より3.2ポイント増加した。ほぼ半数の生徒に家庭での学習習慣が定着していることがみとれる。平日・休日で「全くしない」と回答した生徒の割合が全国・北海道よりも多く、「1時間より少ない」と回答した半数の生徒には、家庭での学習習慣を定着させる必要がある。なお、当別町・北海道・全国ともに「1時間以上、2時間より少ない」と回答した生徒の割合が一番多くなっている。

②「学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか」との質問に、約半数の生徒が「学習塾に通っていない」と回答した。そういう状況の中で、家庭学習の時間が少ないことは、大きな課題である。家庭での学習を定着させるために学校と家庭で「家庭学習を大切にす」という同じ視点に立って、連携して生徒を支えていくことが大切である。

③家庭学習の取り組みとして、「自分で計画を立てて勉強」、「学校の宿題」、「学校の授業の復習」をしていると回答した生徒の割合は昨年より多く、「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」との質問に「している」、「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合は半数を超えた。

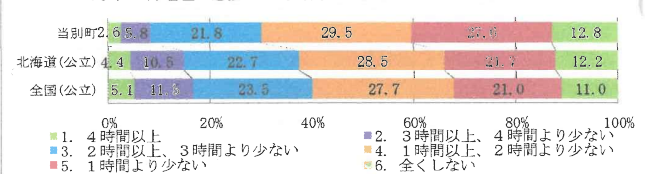
④半数の生徒が、1日1時間以上、教科書を活用し、学校の宿題や復習の学習をするなど、家庭での学習習慣が定着しているものの、残り半数の生徒は家庭での学習時間が少なく、教科書を活用していないなど、家庭での学習習慣が二極化している。家庭での学習習慣が定着するよう、家庭学習全般の指導から自己点検まで系統化した改善が必要である。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」



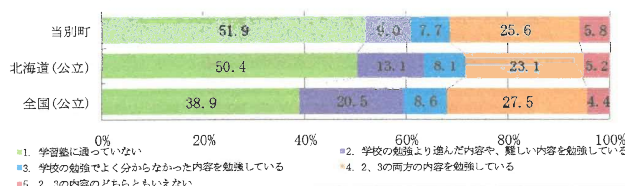
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた生徒の割合は50.0%で、全国より17.9ポイント少なく、昨年度より2.4ポイント減少した。

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」



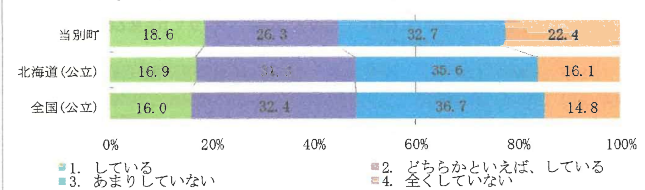
【家庭学習】「1時間以上」と、答えた生徒の割合は59.7%で、全国より8.1ポイント少なく、昨年度より3.2ポイント増加した。

「学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか」



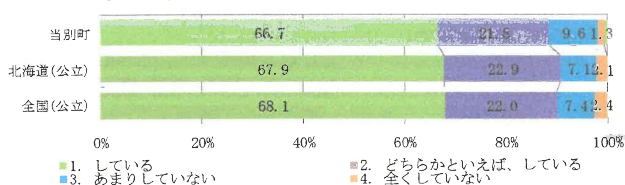
【家庭学習】塾に通っていないと答えた生徒の割合が51.9%で、全国より13.0ポイント多く、昨年度からは0.9ポイント増加した。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」



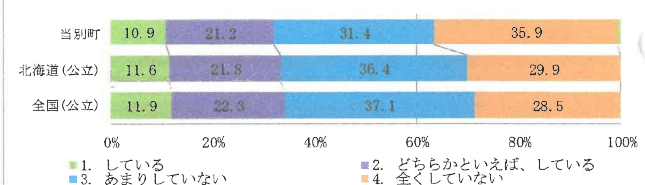
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は44.9%で、全国より3.5ポイント少なく、昨年度より0.7ポイント増加した。

「家で、学校の宿題をしていますか」



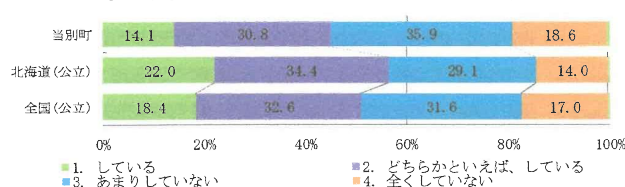
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は88.5%で、全国より1.6ポイント少なく、昨年度より2.8ポイント増加した。

「家で、学校の授業の予習をしていますか」



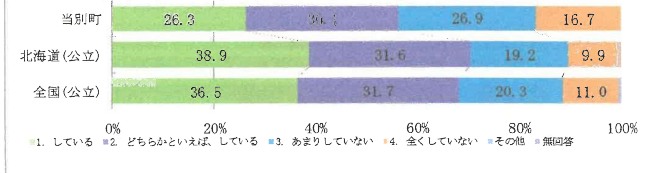
【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は32.1%で、全国より2.1ポイント少なく、昨年度より9.0ポイント増加した。

「家で、学校の授業の復習をしていますか」



【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は44.9%で、全国より6.1ポイント少なく、昨年度より2.1ポイント減少した。

「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」



【家庭学習】「している」「どちらかといえば、している」と答えた生徒の割合は56.4%で、全国より11.8ポイント少ない。《新規》

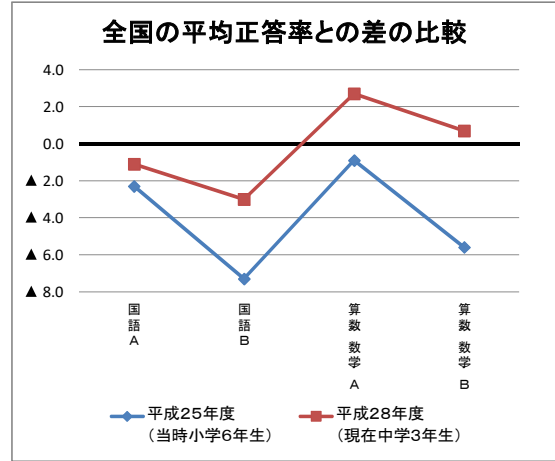
## V 小学生から中学生への経年変化

平成25年度調査時に小学6年生だった児童が、今年度には、中学3年生になって同調査を受けている。平成25年度と今年度における学力を比較した。

### 1) 学力の経年変化

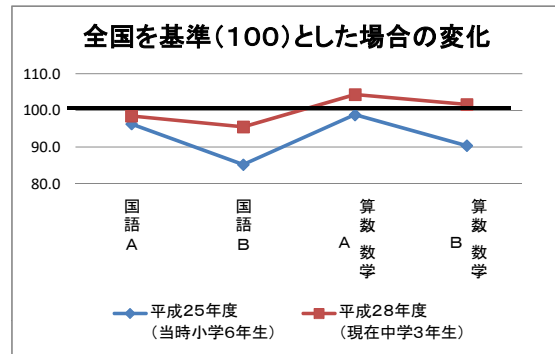
全国の平均正答率との差の比較

		国語A	国語B	算数 (数学) A	算数 (数学) B
平成25年度 (当時小学6年生)	当別町	60.4	42.1	76.3	52.8
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
	全国との差	▲ 2.3	▲ 7.3	▲ 0.9	▲ 5.6
平成28年度 (現在中学3年生)	当別町	74.5	63.5	64.9	44.8
	全国	75.6	66.5	62.2	44.1
	全国との差	▲ 1.1	▲ 3.0	2.7	0.7



全国を基準(100)とした場合の変化

		国語A	国語B	算数 (数学) A	算数 (数学) B
平成25年度 (当時小学6年生)		96.3	85.2	98.8	90.4
平成28年度 (現在中学3年生)		98.5	95.5	104.3	101.6
全国		100	100	100	100



※平均正答率では、問題数の違いやその年の難易度があるので、全国の平均正答率を100とした基準点を設定し、正当比を比較している。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合の変化

平成25年度(当時小学6年生)	国語A			国語B			算数A			算数B			
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	
	25.6%	26.4%	23.1%	26.9%	23.6%	20.1%	23.7%	28.1%	23.7%	32.0%	33.4%	27.4%	
全国との差	18問中8問以下		多い	10問中2問以下		多い	19問中12問以下		0.0%	13問中5問以下		多い	
平成28年度(現在中学3年生)	国語A			国語B			数学A			数学B			
	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	当別町	北海道	全国	
	29.0%	28.3%	26.5%	30.2%	27.8%	25.4%	23.0%	26.8%	25.1%	20.9%	22.9%	21.3%	
全国との差	33問中22問以下		多い	9問中4問以下		多い	36問中16問以下		-2.1%	少ない	15問中3問以下		少ない
全国との差の比較	0.0%			-2.0%		減少	-2.1%		減少	-5.0%		減少	

#### 特徴

○平成25年度の当時小学6年生と平成28年度の現在中学3年生の平均正答率で全国との差を経年比較すると、国語Aでは1.2ポイント、国語Bでは4.3ポイント向上した。算数Aと数学Aでは3.6ポイント、算数Bと数学Bでは6.3ポイント向上した。国語、算数、数学ともにBの「活用」に関する問題が、平成25年度時より大きく向上しており、今年度の数学A・Bでは、全国を上回る結果になった(参照:右上段の表)。

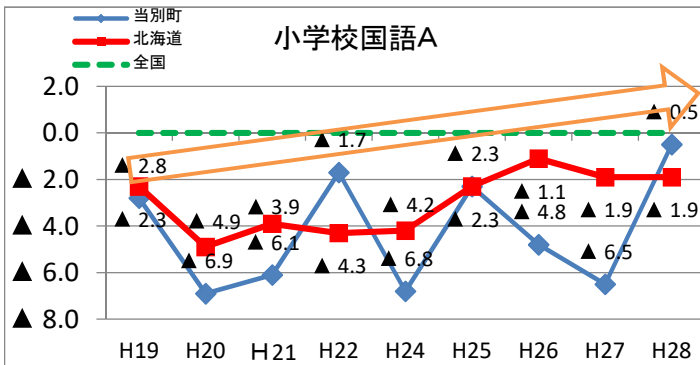
○今年度の下位層は、平成25年度と比べて、国語Aを除き減少した。中学校での頑張りが窺える。

○学力向上の要因として、「ICT機器の導入による授業の効率化」、「小・中学校の教職員の授業交流による学習過程の共通理解」が進み、「授業改善に結びついた」と推察できる。

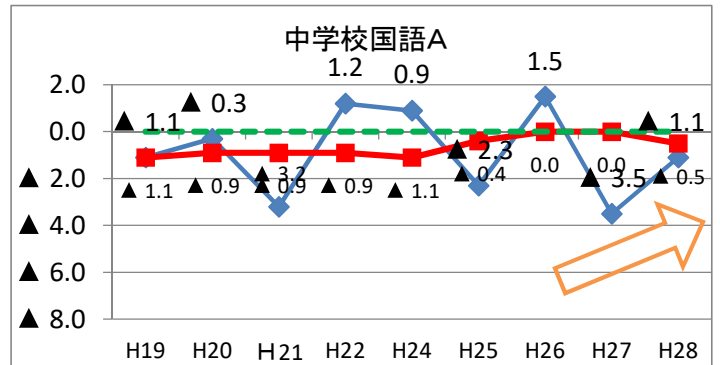
○さらに小学校と中学校の連携を強化し、つまづきの原因を発見しながら、解決に向けた学習指導を図っていく必要がある。

## VI 当別町の平均正答率の推移

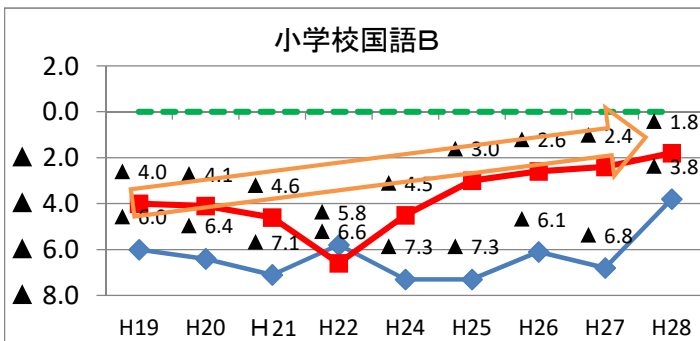
《平成19年度から平成28年度までの全国平均正答率との比較》



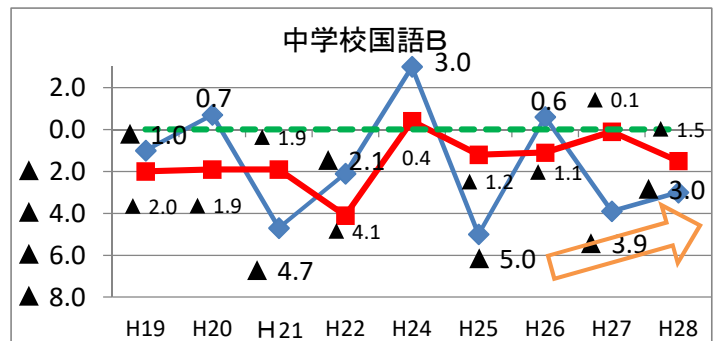
国語A:この10年間で全国平均を超えたことはなく、最大6.9ポイントの差が開いた年度もあったが、平成28年度は0.5ポイントの差で全国に最も近づいた。



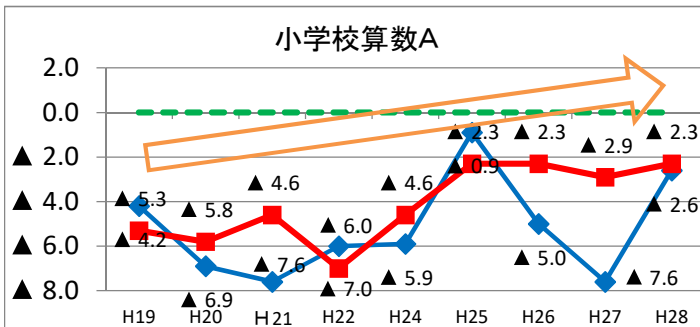
国語A:この10年間に於いて、平成22、24、26年度に全国平均を超えている。平成28年度は1.1ポイント下回った。



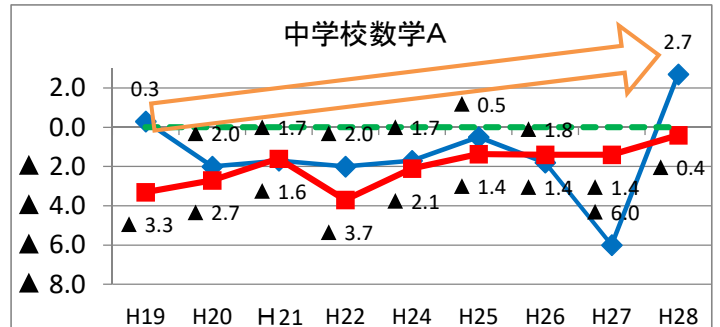
国語B:この10年間で全国平均を超えたことはなく、最大7.3ポイントの差が開いた年度もあったが、平成28年度は3.8ポイントの差で全国に最も近づいた。



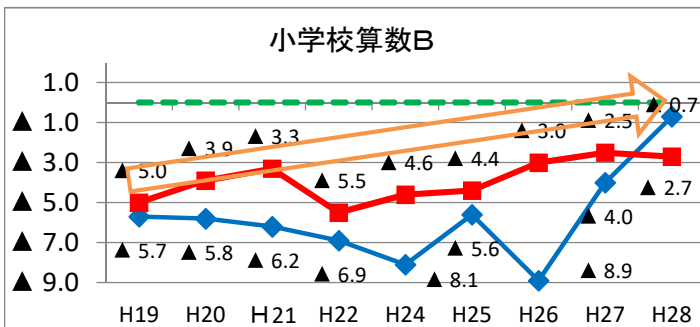
国語B:この10年間に於いて、平成20、24、26年度で全国平均を超えている。平成28年度は3.0ポイント下回った。



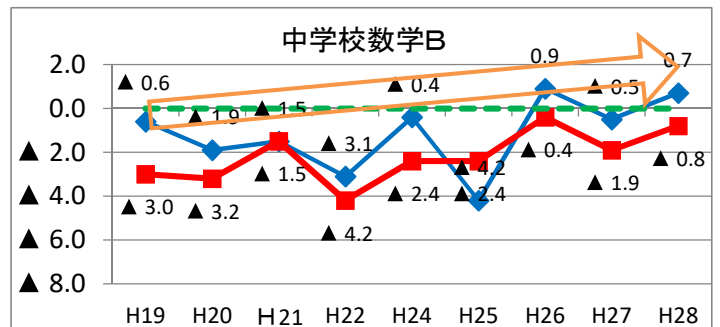
算数A:この10年間で全国平均を超えたことはなく、最大7.6ポイントの差が開いた年度もあったが、平成25年に最も近づき、平成28年度は2.6ポイント下回った。



数学A:この10年間に於いて、平成19年度に全国平均を超えて以来、9年ぶりに平成28年度は全国平均を超えた。



算数B:この10年間で全国平均を超えたことはなく、最大8.9ポイントの差が開いた年度もあったが、平成28年度は0.7ポイントの差で全国に最も近づいた。



数学B:この10年間に於いて、平成26年度に全国平均を超えて以来、2年ぶりに平成28年度は全国平均を超えた。

## **Ⅷ 学力・生活習慣の向上に向けた取組**

### 1 授業改善の取組

- ① デジタル教科書の導入とICT機器の充実（電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラの全学校全クラスへの配置）及び教職員への活用研修の実施
- ② アクティブ・ラーニングの視点に立った指導方法の確立
- ③ TT（ティーム・ティーチング）や少人数・習熟度別指導などに応じた教職員の加配やSAT（スクールアシスタントティーチャー）などによる人的支援

### 2 小中一貫教育の推進

- ① 9年間の教育目標の作成
- ② 各教科の系統性に基づく授業の充実
- ③ 教職員の意識改革
- ④ 小・小連携、中・中連携による指導方法の連携交流の実施
- ⑤ 小中一貫教育推進講師の配置

### 3 家庭教育の啓発

- ① 乳幼児と保護者へのブックスタート事業の継続と小学校入学児童と保護者へのブックセカンド事業の新規実施
- ② 教育委員会発行の「当別町家庭教育の手引き」と学校発行の「家庭学習の手引き」による家庭教育の推進

### 4 始業前、放課後の活用

- ① 朝読書、朝学習の推進
- ② 放課学習、土曜学習の充実
- ③ 長期休業中の補習の実施